

Ⅸ 緑の地域カルテ

1. 区域別の総合評価

今回の調査結果から区域別に集計した各種データを用いて緑の特徴を区域別に解析し、課題の抽出を行った。

緑の評価として、緑被率、緑被変化率、公園充足率、緑視率、樹木密度、緑化余地率の6種類の指標を基準にしたがって5段階に点数化し、評価図としてレーダーグラフを作成した。点数化の基準を表Ⅸ-1に示す。

また、区全体における基礎データとその評価図を表Ⅸ-2、図Ⅸ-1に、区域別の評価を表Ⅸ-3にそれぞれ示す。

表Ⅸ-1 指標の5段階評価

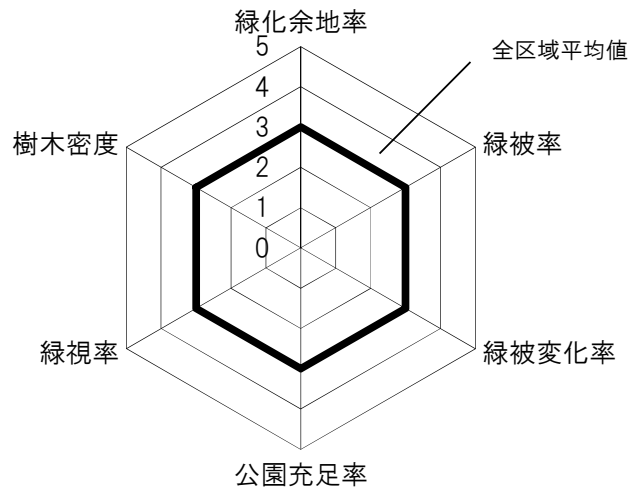
点数	緑被率	緑被変化率	樹木密度	公園充足率	緑化余地率	緑視率
	(%)	(%)	(本/ha)	(%)	(%)	(%)
5	25.1～	5.6～	9.1～	90.1～	0.81～	20.1～
4	20.1～25.0	2.6～5.5	7.1～9.0	80.1～90.0	0.61～0.80	17.1～20.0
3	15.1～20.0	-0.5～2.5	4.1～7.0	70.1～80.0	0.41～0.60	13.1～17.0
2	10.1～15.0	-3.5～-0.6	2.1～4.0	60.1～70.0	0.21～0.40	10.1～13.0
1	0～10.0	～-3.6	0～2.0	0～60.0	0～0.20	0～10.0
区全体	18.4	1.0	6.4	77.3	0.50	14.2

表Ⅸ－２ 文京区の基礎データ

文京区基礎データ	
面積	1,129.0 ha
人口	221,489 人
人口密度	196.2 人/ha
緑被率	18.4 %
樹木被覆地率	17.0 %
草地率	1.4 %
裸地率	1.1 %
樹木本数	7,253 本
保護樹木本数	690 本
樹木密度	6.4 本/ha
公園充足率	77.3 %
緑視率	14.2 %

注 1：人口は、平成 31 年 1 月 1 日現在。

2：保護樹木は、平成 30 年 10 月 1 日現在。



図Ⅸ－１ 文京区の緑の評価

表区－3 区域別緑の評価

区域 番号	区域名称	面積 (ha)	人口 (人)	樹木数 (本)	樹木密度 (本/ha)	評価	緑被率 (%)	評価	緑被変化率 (%)	評価	公園充足率 (%)	評価	緑化余地率 (%)	評価	緑視率 (%)	評価
1	後楽	36.3	2,265	56	1.5	1	14.1	2	14.4	5	52.4	1	0.38	2	20.5	5
2	春日	33.6	5,766	170	5.1	3	19.3	3	4.4	4	79.0	3	0.82	5	12.2	2
3	小石川南	44.5	12,929	83	1.9	1	9.5	1	-9.2	1	94.4	5	0.19	1	7.3	1
4	小石川北	41.2	9,731	194	4.7	3	15.5	3	2.5	3	82.6	4	0.54	3	16.0	3
5	白山南	34.1	9,330	103	3.0	2	11.8	2	-4.7	1	69.6	2	0.28	2	12.5	2
6	白山北	48.1	9,267	102	2.1	2	14.5	2	11.6	5	67.8	2	0.33	2	17.3	4
7	千石	68.8	19,130	135	2.0	1	11.2	2	1.0	3	80.1	4	0.35	2	13.3	3
8	水道	19.3	6,548	6	0.3	1	9.0	1	20.0	5	45.0	1	0.22	2	13.2	3
9	小日向	50.2	8,219	77	1.5	1	15.7	3	-2.3	2	85.9	4	0.72	4	13.4	3
10	大塚南	55.1	7,112	756	13.7	5	27.2	5	3.2	4	86.0	4	1.62	5	16.7	3
11	大塚北	50.9	11,535	231	4.5	3	16.8	3	7.8	5	80.4	4	0.32	2	10.5	2
12	関口	43.9	6,823	480	10.9	5	25.6	5	-3.2	2	96.3	5	0.60	3	14.8	3
13	目白台	48.5	7,168	508	10.5	5	26.7	5	-7.4	1	94.3	5	0.98	5	20.2	5
14	音羽	19.3	5,956	34	1.8	1	10.7	2	7.8	5	65.0	2	0.23	2	8.9	1
15	本郷南	55.6	10,826	89	1.6	1	9.9	1	7.6	5	66.6	2	0.21	2	14.9	3
16	本郷北	37.9	9,905	55	1.5	1	8.6	1	-10.8	1	45.8	1	0.19	1	12.6	2
17	湯島	55.3	9,598	226	4.1	3	12.3	2	2.4	3	77.8	3	0.24	2	15.3	3
18	西片	27.9	5,444	66	2.4	2	15.0	2	-6.2	1	91.1	5	0.29	2	21.0	5
19	向丘	35.4	6,907	174	4.9	3	13.8	2	-1.3	2	72.6	3	0.21	2	11.6	2
20	弥生	27.2	1,989	332	12.2	5	26.4	5	1.1	3	29.5	1	0.45	3	16.3	3
21	根津	20.5	6,487	102	5.0	3	13.0	2	1.2	3	60.0	1	0.11	1	9.5	1
22	千駄木	72.7	20,631	178	2.4	2	10.6	2	-2.8	2	91.7	5	0.33	2	8.4	1
23	本駒込東	53.5	13,597	266	5.0	3	12.3	2	4.8	4	94.0	5	0.41	3	14.9	3
24	本駒込西	66.9	13,839	240	3.6	2	14.4	2	4.3	4	96.3	5	0.70	4	16.3	3
一般区域小計		1,046.7	221,002	4,663	4.5	—	15.2	—	1.4	—	77.3	—	0.48	—	14.2	—
25	東大本郷	42.8	487	725	16.9	5	32.3	5	-0.3	3	—	—	0.25	2	—	—
26	六義園	8.8	—	430	48.9	5	86.7	5	-2.3	2	—	—	1.21	5	—	—
27	後楽園	7.1	—	388	54.6	5	81.3	5	-2.7	2	—	—	1.46	5	—	—
28	植物園	16.1	—	671	41.7	5	90.5	5	-2.2	2	—	—	1.60	5	—	—
29	豊島岡墓地	7.8	—	376	48.2	5	87.9	5	2.6	4	—	—	1.00	5	—	—
特別区域小計		82.6	487	2,590	31.4	—	58.9	—	-1.1	—	—	—	0.79	—	—	—
区全体		1,129.0	221,489	7,253	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
区平均		—	—	250	6.4	3	18.4	3	1.0	3	77.3	3	0.50	3	14.2	3

2. 区域別地域カルテ

一般区域の区域別に、「基礎データ」、「緑のタイプと現況」、「緑の分布」、「緑の評価・指標」、「緑の評価と課題」の5項目について現況、評価をまとめた区域別地域カルテを以下に記載する。なお、「基礎データ」における用途地域の凡例は以下のとおりとする。

○ 用途地域の凡例

- 1 低 . . . 第1種低層住居専用地域
- 1 高 . . . 第1種中高層住居専用地域
- 2 高 . . . 第2種中高層住居専用地域
- 1 住 . . . 第1種住居地域
- 2 住 . . . 第2種住居地域
- 近 . . . 近隣商業地域
- 商 . . . 商業地域
- 準 . . . 準工業地域

[1. 後楽区域]

[基礎データ]

小石川後楽園除く

◎ 面積	36.3 ha
◎ 人口	2,265 人
◎ 用途地域	1住、2住、近、 商、準
◎ 樹木本数	56 本
◎ 樹木密度	1.5 本/ha
◎ 樹木密度	25 本/1,000人
◎ 保護樹木	11 本
◎ 緑被率	14.1 %
◎ 樹木被覆地率	13.1 %
◎ 緑視率	20.5 %
◎ 公園充足率	52.4 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 民間施設（東京ドームシティ）
 緑被地の規模 小規模

現況

区域内に集計対象外であるが特別区域の小石川後楽園があり、大きな緑の拠点となっている。

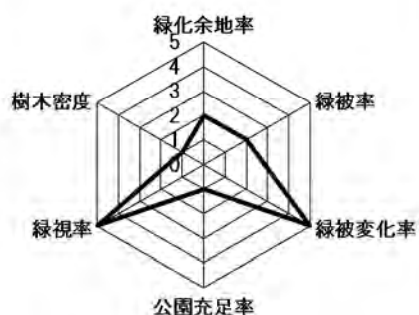
1丁目は大規模の商業ビル等が建ち緑化はほぼ終了している。

2丁目においては、ほとんどの地域が小規模な住宅・商業ビルが大部分を占めており緑化する余地はほとんどない。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は区の平均より低く、前回調査と同程度である。
- ・道路沿道には多くの街路樹や植樹帯により、緑視率は高い水準を保っている。
- ・小石川後楽園や東京ドームシティなどがあるが、区立公園が1箇所しかないため、公園充足率が低い。
- ・2丁目の住宅、商業ビルにおいて、共同化等による開発が行われる場合、屋上緑化と同時に区民に開放される空間が確保されるよう誘導していくことが求められる。
- ・樹木密度が低いため、既存の樹木の保存と同時に、大きく成長させるよう促していく必要がある。
- ・屋上緑化や公共施設の緑化を行う際に、樹木による緑化をしていくことが望まれる。

[2. 春日区域]

[基礎データ]

◎ 面積	33.6 ha
◎ 人口	5,766 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、2 住、 近、商、準
◎ 樹木本数	170 本
◎ 樹木密度	5.1 本/ha
◎ 樹木密度	29 本/1,000人
◎ 保護樹木	13 本
◎ 緑被率	19.3 %
◎ 樹木被覆地率	17.2 %
◎ 緑視率	12.2 %
◎ 公園充足率	79.0 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 公有地型
 主要な緑被地 公園（区立礪川公園）
 緑被地の規模 中規模

現況

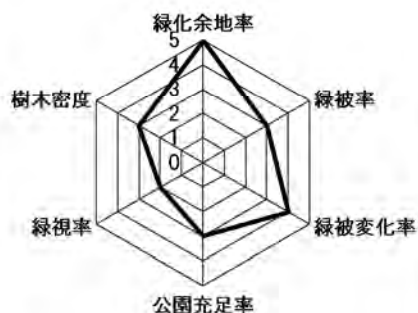
1 丁目の緑被地は公共施設・公有地にあり緑の永続性は高い。
 2 丁目は低層住宅と中高層住宅の混在する地域であるが、一部、大規模なマンションの緑地により緑被率は平均近くにある。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は区の平均よりやや高く増加傾向にあり、緑視率は平均より低い。
- ・緑化余地率は比較的高いが、ほとんどが私有地であり、これ以上の緑化は難しいため、既存の緑の保全が重要。
- ・2 丁目では中高層化が行われる場合、屋上緑化と同時に区民に開放される空間が確保されるよう誘導していくことが求められる。

[3. 小石川南区域]

[基礎データ]

◎ 面積	44.5 ha
◎ 人口	12,929 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、商、 準
◎ 樹木本数	83 本
◎ 樹木密度	1.9 本/ha
◎ 樹木密度	6 本/1,000人
◎ 保護樹木	33 本
◎ 緑被率	9.5 %
◎ 樹木被覆地率	9.3 %
◎ 緑視率	7.3 %
◎ 公園充足率	94.4 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（伝通院、沢蔵司稲荷）
 緑被地の規模 小規模

現況

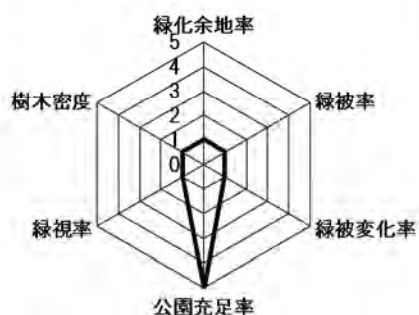
1 丁目は商業地域で緑被率が区の平均よりかなり低い再開発等により前回調査と比較して緑化がやや上昇した。

2・3 丁目は住居系地域で3 丁目の北部では小規模の工場が散在し、主な緑被地は社寺林である。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は区の平均より低く、やや減少傾向にある。
- ・区域内に公園が点在しているため、公園充足率は高い。
- ・再開発が進む区域だが、屋上緑化や壁面緑化などの緑化スペースの確保などを働き掛ける必要がある。
- ・白山通り、春日通りなどでは、関係機関に街路樹や植樹帯の整備や街路樹の成長促進を働きかけることも望まれる。
- ・低層住宅の広がる区域では、生垣などの接道部緑化を促進していく必要がある。

[4. 小石川北区域]

[基礎データ]

◎ 面積	41.2 ha
◎ 人口	9,731 人
◎ 用途地域	1 高、2 高、1 住、 2 住、商、準
◎ 樹木本数	194 本
◎ 樹木密度	4.7 本/ha
◎ 樹木密度	20 本/1,000人
◎ 保護樹木	10 本
◎ 緑被率	15.5 %
◎ 樹木被覆地率	14.6 %
◎ 緑視率	16.0 %
◎ 公園充足率	82.6 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 公有地型
 主要な緑被地 道路（環状3号線）、個人宅
 緑被地の規模 中規模

現況

4丁目は大きな事業所、マンション、学校、社寺が多くを占めており、緑被率は平均よりやや低い程度の水準を保っている。

5丁目においては住宅の地域であり、緑被率は4丁目より低い数値であり減少傾向にある。

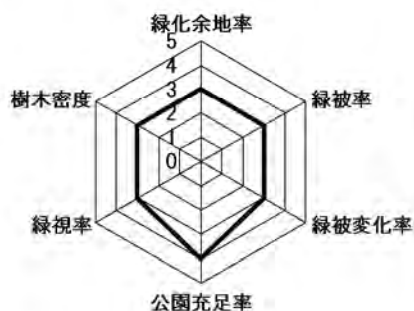
総合的に緑被率は平均よりも低いが、緑の担保性は高い。また、環状3号線のサクラの街路樹の存在はかなり大きい。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は前回と同程度で大きな変動は認めれない。
- ・樹木密度が低いため、既存の樹木の保存と同時に、大きく成長させるよう促していく必要がある。
- ・街路樹により、緑視率は平均より高い
- ・樹林を有する社寺、学校も多く、街路樹も含めて、保全をしていくことが必要である。
- ・緑の多い住宅地があり、区域の環境維持のため、これらの庭が今後も存在し続けられるよう促す必要がある。
- ・長年にわたり緑の安定した区域のため、既存の緑の維持やさらに区域の景観に資する緑化を促進することが望まれる。

[5. 白山南区域]

[基礎データ]

◎ 面積	34.1 ha
◎ 人口	9,330 人
◎ 用途地域	1 住、近、商、 準
◎ 樹木本数	103 本
◎ 樹木密度	3.0 本/ha
◎ 樹木密度	11 本/1,000人
◎ 保護樹木	8 本
◎ 緑被率	11.8 %
◎ 樹木被覆地率	10.8 %
◎ 緑視率	12.5 %
◎ 公園充足率	69.6 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 公有地型
主要な緑被地 学校（東洋大学京北中学校・高等学校）、
 民間施設（白山閣）
緑被地の規模 中規模

現況

大部分が低地であり、白山通り沿いは小・中規模の商業ビルが多く1丁目は小規模な商店、工場が林立しているために緑被率はかなり低い。

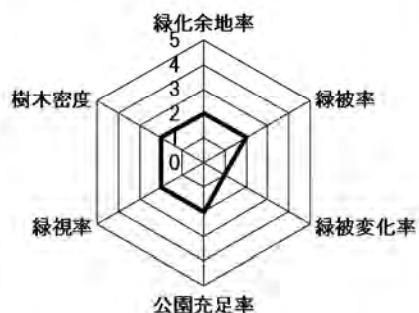
2丁目も小規模住宅、工場が多いが企業、公共用地の大きな緑地により緑被率は区の平均をやや下回る程度を維持している。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) . . . 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率等が区の平均を下回っているが、これは一丁目の低い緑被率が影響している。
- ・緑視率は宅地内の緑被の低下とともに低い水準にある。
- ・1丁目及び千川通り沿いの住宅地や工業区域が開発される場合には、緑地確保や屋上緑化を促していく必要がある。
- ・2丁目においては、学校・民間施設の既存の緑の保全が重要であり、さらにその成長を促していく必要がある。
- ・公園についても整備を検討していく必要がある。

[6. 白山北区域]

[基礎データ] 小石川植物園除く

◎ 面積	48.1 ha
◎ 人口	9,267 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 近、商、準
◎ 樹木本数	102 本
◎ 樹木密度	2.1 本/ha
◎ 樹木密度	11 本/1,000人
◎ 保護樹木	19 本
◎ 緑被率	14.5 %
◎ 樹木被覆地率	13.3 %
◎ 緑視率	17.3 %
◎ 公園充足率	67.8 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（白山神社）
 緑被地の規模 小規模

現況

区域内に集計対象外であるが特別区域の小石川植物園があり、緑の拠点となっている。

4丁目は多くが住居系の地域であり、比較的緑の豊かな住宅が多い。

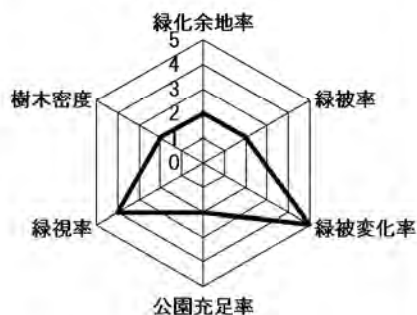
5丁目は学校関係の敷地が大きく保全性は高い。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) . . . 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・小石川植物園を除いた緑被率は区の平均を下回っているがやや増加傾向にある。
- ・緑視率は区の平均を大きく上回っており、これは街路樹、緑豊かな住宅地が良い影響を与えている。
- ・住居地に庭や接道部に緑が多く、これらを維持・保全していく必要がある。
- ・住居地において小規模な住宅への細分化が懸念される。
- ・千川通り沿いの小規模工場等の開発の際には、緑化を促していく繋がると思われる。
- ・小石川植物園があるが公園充足率が低いため、何らかの形区民のレクリエーションに資する場を検討する必要がある。
- ・社寺の緑が多くこれらの保全・維持を促す必要がある。

[7. 千石区域]

[基礎データ]

◎ 面積	68.8 ha
◎ 人口	19,130 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 2 住、近、商、準
◎ 樹木本数	135 本
◎ 樹木密度	2.0 本/ha
◎ 樹木密度	7 本/1,000人
◎ 保護樹木	19 本
◎ 緑被率	11.2 %
◎ 樹木被覆地率	10.0 %
◎ 緑視率	13.3 %
◎ 公園充足率	80.1 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
主要な緑被地 公園（区立文京宮下公園、区立千石緑地）
緑被地の規模 小規模
現況
 主な緑被地は区立公園、企業の寮、民間の優良な共同住宅である。
 多くの部分が住居系の地域であり、4丁目は小規模住宅が密集しており、特に緑被率が低い。
 3丁目は良好な住宅地であり、緑被率も区の平均をやや下回るが、公園緑地が多い1丁目と並ぶ数値である。
 一部不忍通り沿いに小規模な店舗、住宅が見られるが緑被地はほとんどない。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は区の平均をやや下回るものの、住宅地が多い地域としては高い水準を維持している。
- ・大部分を住宅地が占めているために緑の保全性が低く、良好な住環境を維持するために住宅地の緑の保全を促す必要がある
- ・今後の宅地開発に際しては、緑化を促していく必要がある。
- ・緑視率は前回よりやや上昇したが、依然3・4丁目で低い。今後、ブロック塀の生垣等への改修等が望まれる。
- ・社寺の緑の保全・維持を促す必要がある。

[8. 水道区域]

[基礎データ]

◎ 面積	19.3 ha
◎ 人口	6,548 人
◎ 用途地域	1住、2住、近、 商、準
◎ 樹木本数	6 本
◎ 樹木密度	0.3 本/ha
◎ 樹木密度	1 本/1,000人
◎ 保護樹木	0 本
◎ 緑被率	9.0 %
◎ 樹木被覆地率	8.1 %
◎ 緑視率	13.2 %
◎ 公園充足率	45.0 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 民間施設 (凸版印刷)
 緑被地の規模 小規模

現況

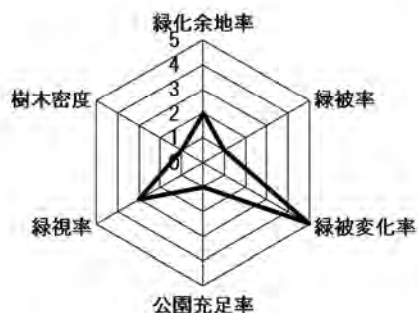
工業系の地域であり、大小の印刷工場が占めている。
 その他の地域は小規模な住宅、共同住宅が点在している。
 民間施設に緑被地が増えたもののまだ大きな緑被地が少ない。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) . . . 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・この地域は緑被率が区の中でも低い地域であるが増加傾向にある。
- ・緑視率については、前回調査よりやや上昇した。
- ・1丁目の緑視率が区の平均を超えているのは、規模の大きな工場、共同住宅及び街路樹によるものであり、今後も開発による緑地の確保を促す必要がある。
- ・再開発等を行う際には、緑化を促す必要がある。
- ・公園充足率が低いのが、隣接する都市計画公園の水道端公園の整備が進むと、公園充足率の上昇が望める。

[9. 小日向区域]

【基礎データ】

◎ 面積	50.2 ha
◎ 人口	8,219 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 2 住、近、商、準
◎ 樹木本数	77 本
◎ 樹木密度	1.5 本/ha
◎ 樹木密度	9 本/1,000人
◎ 保護樹木	12 本
◎ 緑被率	15.7 %
◎ 樹木被覆地率	13.7 %
◎ 緑視率	13.4 %
◎ 公園充足率	85.9 %

【緑のタイプと現況】

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（日輪寺）、民間施設
 緑被地の規模 中規模
 現況

台地上の地域であり、住居系がほとんどを占めている。
 比較的緑豊かな住宅地といえる。
 主な緑被地は大学、社寺林、寮、住宅地の緑である。

【緑の分布】



建ぺい率制限 (%) ・ ・ ・ 80、60

【緑の評価・指標】



【緑の評価と課題】

- ・ 緑被率、緑視率ともに前回調査よりやや減少している。
- ・ 2丁目は区の平均緑被率にやや近い数値であるが、良好な状況にある。
- ・ 1、3丁目も区の平均緑被率をやや下回っている程度であるが、緑化の余地はあまりなく、大きな増加は期待できない。
- ・ 社寺林、大学の緑地、住宅の緑の保全を重点に考えていく必要がある。

[10. 大塚南区域]

[基礎データ]

◎ 面積	55.1 ha
◎ 人口	7,112 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、近、 商、準
◎ 樹木本数	756 本
◎ 樹木密度	13.7 本/ha
◎ 樹木密度	106 本/1,000人
◎ 保護樹木	18 本
◎ 緑被率	27.2 %
◎ 樹木被覆地率	25.0 %
◎ 緑視率	16.7 %
◎ 公園充足率	86.0 %

[緑のタイプと現況]

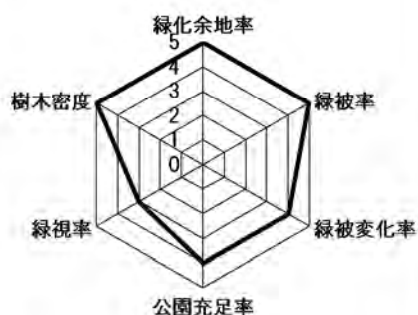
緑被地の所有 公有地型
主要な緑被地 公園（区立教育の森公園、占春園）
緑被地の規模 大規模
現況
 台地上にある住居系地域であり、公共施設や学校が多い。
 被覆地はお茶の水女子大学、区立公園、筑波大学附属の中
 高校、占春園等が大きなものである。
 公園施設等の緑被地が中心なので、緑の担保性は高い。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・全ての丁目緑被率が区の平均より高い水準にある。
- ・緑視率は、1、2丁で区の平均より高いものの減少傾向にある。
- ・緑化余地率は高いがこれは学校の校庭等が大きいためであり、緑化手法を工夫して緑を増やしていくことが望まれる。
- ・緑の変化が少ない区域であるが、今後これらの緑を保全し、大きく成長させていくための方策が求められる。
- ・春日通り沿いの小商業地及び住宅地を再開発にあたっては、樹木などによる緑地の確保を促す必要がある。

[1 1 . 大塚北区域]

[基礎データ]

豊島岡墓地を除く

◎ 面積	50.9 ha
◎ 人口	11,535 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、近、 商、準
◎ 樹木本数	231 本
◎ 樹木密度	4.5 本/ha
◎ 樹木密度	20 本/1,000人
◎ 保護樹木	34 本
◎ 緑被率	16.8 %
◎ 樹木被覆地率	16.0 %
◎ 緑視率	10.5 %
◎ 公園充足率	80.4 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（護国寺）、公園（区立大塚公園）
 緑被地の規模 中規模

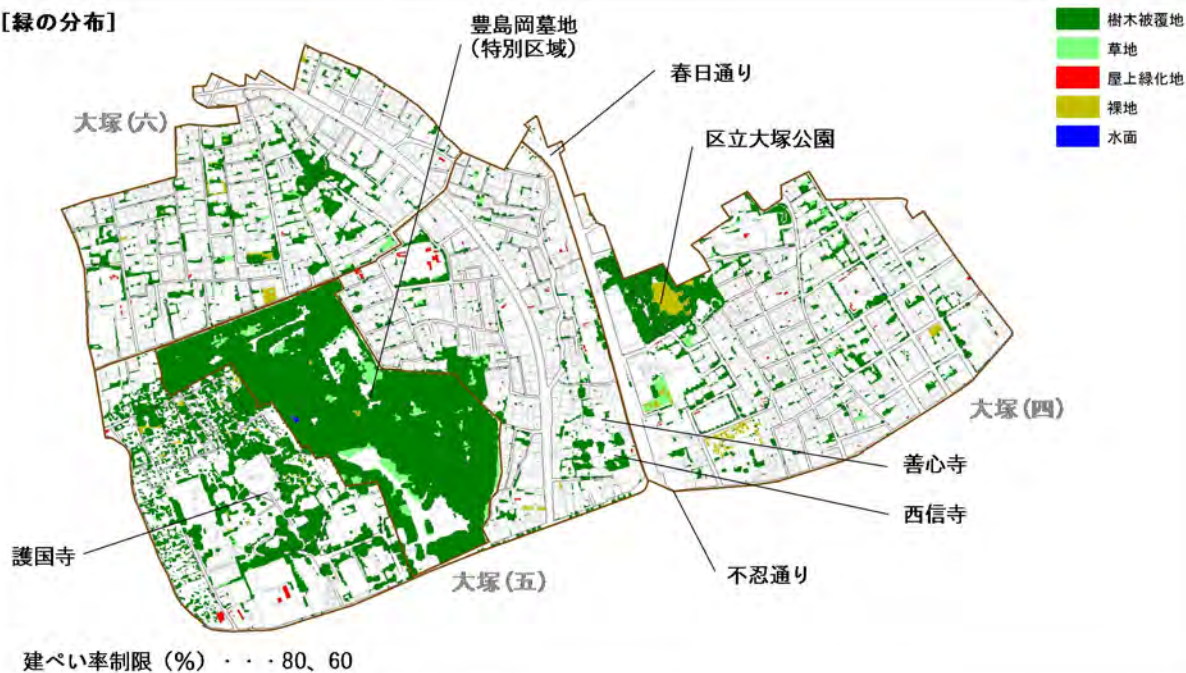
現況

住居系地域であり5丁目の一部と6丁目の一部が低地であり、多くは台地上に位置している。

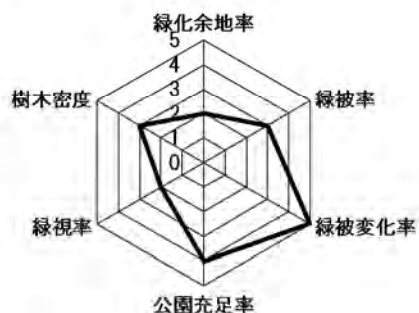
5丁目と6丁目は小規模住宅が密集している状況である。

区立公園、護国寺、集計対象外であるが特別区域の豊島岡墓地が大きい緑被地となっている。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 5丁目の緑被率が区の平均を上回っている。
- ・ 緑被率はすべての丁目で増加している。
- ・ 社寺の緑の保全と大きな成長を促す必要性がある。
- ・ 緑化余地率が低いため、小規模住宅の密集地域で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

[12. 関口区域]

[基礎データ]

◎ 面積	43.9 ha
◎ 人口	6,823 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、2 住、 近、商、準
◎ 樹木本数	480 本
◎ 樹木密度	10.9 本/ha
◎ 樹木密度	70 本/1,000人
◎ 保護樹木	68 本
◎ 緑被率	25.6 %
◎ 樹木被覆地率	24.2 %
◎ 緑視率	14.8 %
◎ 公園充足率	96.3 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 民間施設（関口芭蕉庵、椿山荘）、個人宅
 緑被地の規模 大規模

現況

1丁目は神田川沿いの低地、2丁目は崖線、3丁目は台地上にある。

1丁目は商業系の地域で、2、3丁目は住居系の地域である。

2、3丁目は椿山荘、江戸川公園等広大な樹林や広い土地を持つ緑豊かな住宅地で形成されている。

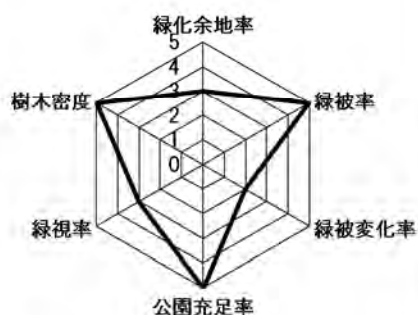
1丁目は小規模な店舗住宅により形成されており緑は少ない。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 1丁目の緑被率が平均より低い、緑視率も平均より低い。
- ・ 2、3丁目は緑被率、緑視率ともに区の平均を上回っている。
- ・ 2、3丁目の民有地緑については、その維持・保全を促す必要がある。
- ・ 1丁目は緑化余地率が低い、再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

[1 3 . 目白台区域]

[基礎データ]

◎ 面積	48.5 ha
◎ 人口	7,168 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 2 住、近、商
◎ 樹木本数	508 本
◎ 樹木密度	10.5 本/ha
◎ 樹木密度	71 本/1,000人
◎ 保護樹木	121 本
◎ 緑被率	26.7 %
◎ 樹木被覆地率	23.0 %
◎ 緑視率	20.2 %
◎ 公園充足率	94.3 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有	公有地型
主要な緑被地	公園（区立肥後細川庭園） 公園（区立目白台運動公園）
緑被地の規模	大規模

現況

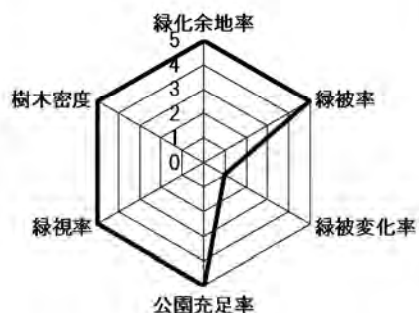
1丁目は崖線にあり、2、3丁目は台地上に分布している。ほとんどが住居系の地域で、肥後細川庭園、和敬塾、大学等の緑が主な緑被地を形成している。

住宅のうち1丁目に小規模住宅が密集している地域があり、2、3丁目は緑豊かな住宅が多く分布している。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率、緑視率ともに区の平均を上回っており、良好な区域である。
- ・特に1丁目は緑被率が非常に高くなっている。
- ・緑被率・緑視率とも前回調査と比較して減少しているが規模は維持している。
- ・大規模な樹木の保全と大きな成長を促す必要性がある。
- ・都市計画道路の整備にあたっては、街路樹や植栽帯の整備を促す必要がある
- ・1丁目の住宅地で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

[14. 音羽区域]

[基礎データ]

◎ 面積	19.3 ha
◎ 人口	5,956 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 2 住、近、商
◎ 樹木本数	34 本
◎ 樹木密度	1.8 本/ha
◎ 樹木密度	6 本/1,000人
◎ 保護樹木	1 本
◎ 緑被率	10.7 %
◎ 樹木被覆地率	9.8 %
◎ 緑視率	8.9 %
◎ 公園充足率	65.0 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型

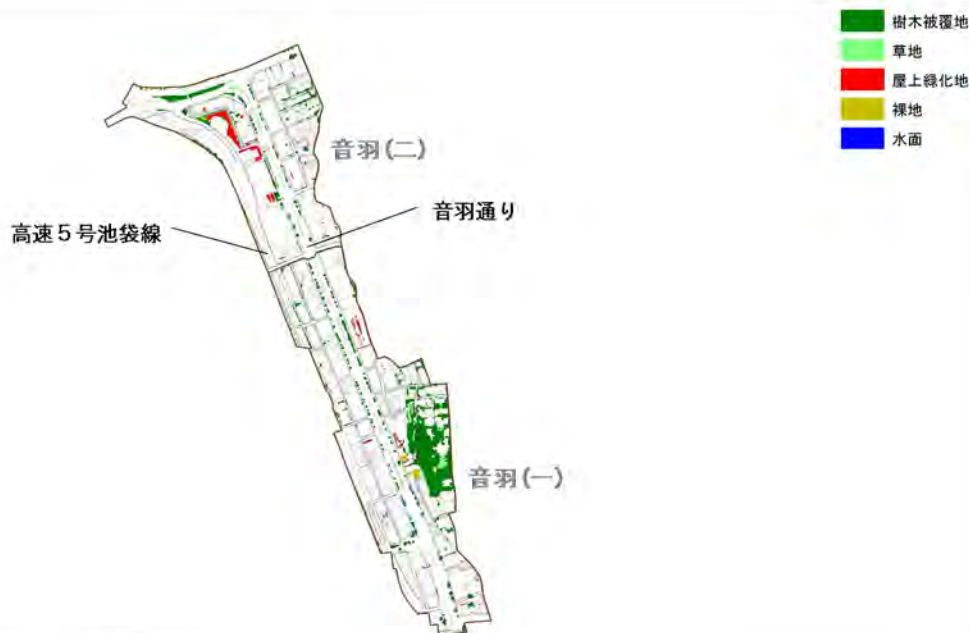
主要な緑被地 個人宅

緑被地の規模 小規模

現況

低地に広がる商業系の地域である。
大規模な共同住宅、商業ビルが多い。
主な緑は住宅地の緑地と街路樹である。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) …… 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 1丁目に民有地の大きな緑地がある以外は大きな緑地はない。
- ・ 緑被率、緑視率ともに区の平均を下回っている。
- ・ 緑化余地率は低いが、1、2丁目ともに一部小規模住宅等の地域で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。
- ・ 公園充足率は低いが、隣接する都市計画公園の豊島ヶ岡公園の整備が進むと、公園充足率の上昇が望める。

[15. 本郷南区域]

[基礎データ]

◎ 面積	55.6 ha
◎ 人口	10,826 人
◎ 用途地域	1住、近、商
◎ 樹木本数	89 本
◎ 樹木密度	1.6 本/ha
◎ 樹木密度	8 本/1,000人
◎ 保護樹木	8 本
◎ 緑被率	9.9 %
◎ 樹木被覆地率	9.0 %
◎ 緑視率	14.9 %
◎ 公園充足率	66.6 %

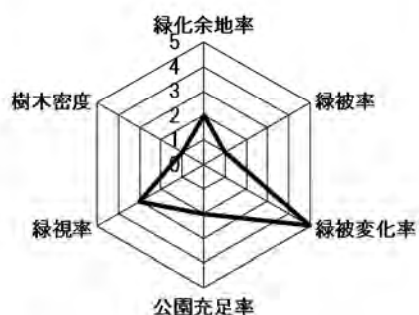
[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 公有地型
主要な緑被地 公園（区立元町公園、区立本郷給水所公苑）
緑被地の規模 小規模
現況
 商業系の地域であり、台地から神田川沿いに下っている。
 小中商業ビルが多く、緑地は少ない。
 大きな緑地も元町公園、本郷給水所公苑くらいしか見あたらない。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 緑被率はやや増加したものの、区の平均よりかなり低い。
- ・ 緑視率は区の平均をやや上回っており、これは街路樹に負うところが多い。
- ・ 緑化余地率は低く、緑被の増加はあまり望めない。
- ・ 2、3丁目の小中規模の商業ビルの建て替え時に規模が大きくなるような開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保や、屋上緑化を促していく必要がある。

[16. 本郷北区域]

[基礎データ] 東大本郷は除く

◎ 面積	37.9 ha
◎ 人口	9,905 人
◎ 用途地域	1住、2住、近、 商
◎ 樹木本数	55 本
◎ 樹木密度	1.5 本/ha
◎ 樹木密度	6 本/1,000人
◎ 保護樹木	17 本
◎ 緑被率	8.6 %
◎ 樹木被覆地率	8.0 %
◎ 緑視率	12.6 %
◎ 公園充足率	45.8 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 公園（区立清和公園）
 緑被地の規模 小規模

現況

多くが住居系の区域であり、台地から白山通りの低地に向かっている地域である。

小規模な住宅、共同住宅が混在している地域であり、緑地は少ない。

主な緑地は区立の公園であるが数は多くない。

集計対象外であるが特別区域の東京大学本郷キャンパスが大きい緑被地となっている。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は増加傾向ではあるが区の平均よりは大きく低い。
- ・緑視率は、6丁目では区の平均を大きく上回っている。これは街路樹、角地にある住宅等の緑が多く見られるためである。
- ・公園充足率が低い。
- ・緑化余地率も低く、緑化の増加は望めないものの、特に本郷通り沿いの小規模店舗の多い地域の再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促していく必要がある。

[17. 湯島区域]

[基礎データ]

◎ 面積	55.3 ha
◎ 人口	9,598 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、2 住、 近、商
◎ 樹木本数	226 本
◎ 樹木密度	4.1 本/ha
◎ 樹木密度	24 本/1,000人
◎ 保護樹木	10 本
◎ 緑被率	12.3 %
◎ 樹木被覆地率	11.3 %
◎ 緑視率	15.3 %
◎ 公園充足率	77.8 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（湯島聖堂、麟祥院）
 緑被地の規模 中規模

現況

台地から上野、神田川沿いに低地に向かって分布しており、多くの地域は低地に位置している。

殆どが商業系の地域であり、中小の商業ビルが多い。

主な緑地は湯島聖堂、湯島天神、切通公園、湯島地方合同庁舎などがある。

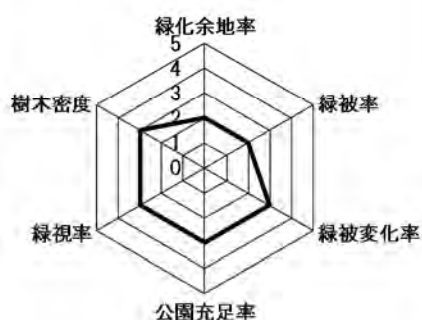
2、3丁目の一部住宅地も小規模住宅が多い。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) ・ ・ ・ 80, 60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 緑被率、緑視率は1、4丁目で区の平均を超えており、2、3丁目で平均を大きく下回っている。
- ・ 緑視率はやや減少しているが、区の平均よりは上回っている。
- ・ 緑化余地率が区で一番低く、緑化の余地はほとんどない状況であるが、春日通り沿い、不忍通り沿いの中小ビル及び一部小規模住宅で開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促していく必要がある。
- ・ 社寺の緑の保全と大きな成長を促す必要性がある。

[18. 西片区域]

[基礎データ]

◎ 面積	27.9 ha
◎ 人口	5,444 人
◎ 用途地域	1 低、1 住、2 住、 近、商
◎ 樹木本数	66 本
◎ 樹木密度	2.4 本/ha
◎ 樹木密度	12 本/1,000人
◎ 保護樹木	18 本
◎ 緑被率	15.0 %
◎ 樹木被覆地率	14.0 %
◎ 緑視率	21.0 %
◎ 公園充足率	91.1 %

[緑のタイプと現況]

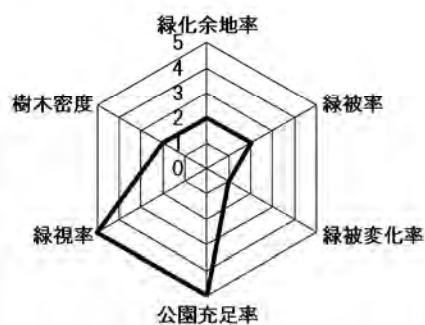
緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 個人宅
 緑被地の規模 小規模
 現況

台地から崖線に沿って広がる地域である。
 ほとんどが低層の住宅地であり、緑豊かな住宅が多い。
 大きな緑地はほとんどなく、住宅地の緑が主な緑地となっ
 ており、区内でも珍しい区域である。

[緑の分布]



[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率はや減少傾向で、緑視率はやや上昇して、区の平均より大きく上回っている。
- ・緑被率は区の平均より低い状況であるが、緑視率は区の平均を上回っており、旧白山通り、言間通りの街路樹と豊かな住宅地の緑による。
- ・緑化余地率は区の平均以下で緑地のさらなる確保は難しい。
- ・現状の住宅の細分化が懸念されるため、豊かな住宅地の緑の保全方策を検討していく必要がある。
- ・言間通り及び旧白山通り沿いの一部小規模商業ビル、小規模住宅の建て替えを行う場合には、壁面緑化などによる緑のけいかんの確保を促す必要がある。

[19. 向丘区域]

[基礎データ]

◎ 面積	35.4 ha
◎ 人口	6,907 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、近、 商
◎ 樹木本数	174 本
◎ 樹木密度	4.9 本/ha
◎ 樹木密度	25 本/1,000人
◎ 保護樹木	62 本
◎ 緑被率	13.8 %
◎ 樹木被覆地率	13.1 %
◎ 緑視率	11.6 %
◎ 公園充足率	72.6 %

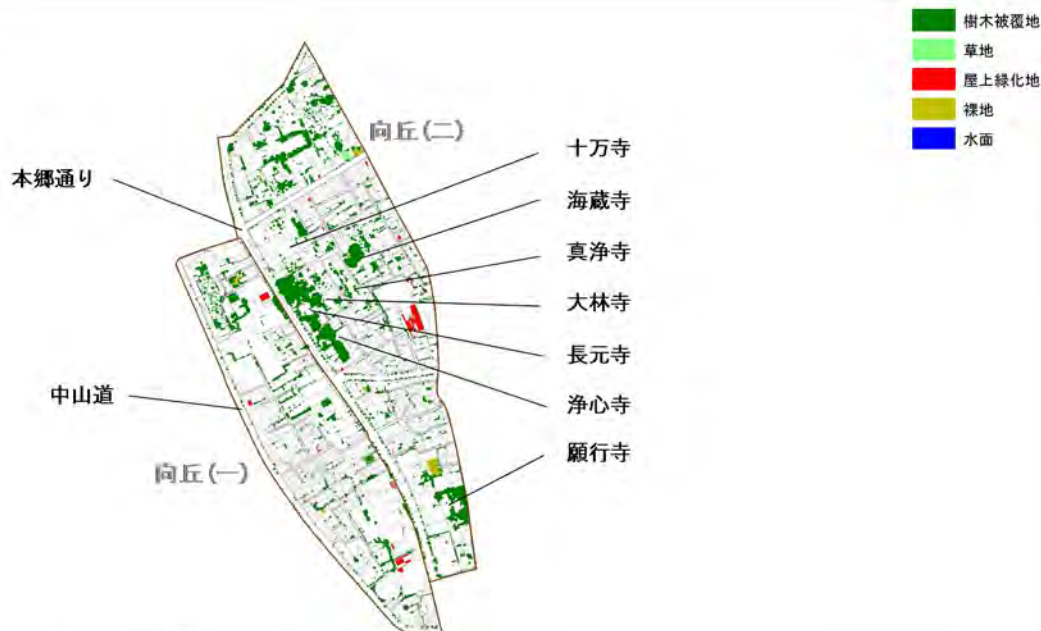
[緑のタイプと現況]

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 社寺（大林寺、長元寺、浄心寺）
 緑被地の規模 中規模

現況

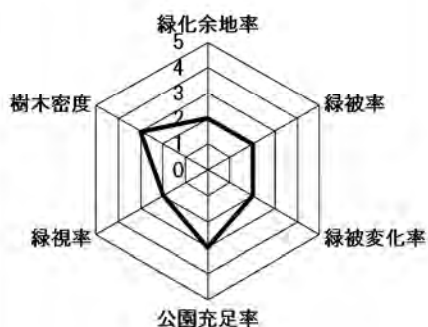
台地上に位置しており、住居系地域が多くを占めている。
 1丁目は学校が大きな面積を占め、その他はほとんどが小規模な住宅が密集している。
 2丁目は社寺が非常に多く、一部学校の敷地、その他は小規模な住宅が密集している。
 緑被地の多くを社寺地で占めている。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) . . . 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率は大きな変化はなく、緑視率はやや減少しているが、区の平均を下回っている。
- ・1丁目の緑被率は増加傾向にあるとはいえかなり低い状況である。
- ・2丁目においては緑被率は区の平均より少し低いが、緑視率は区の平均を上回っている。
- ・区域の緑において、社寺の緑が大きな比重を占めており、これらの維持・保全の必要性がある。
- ・公園充足率は低く。社寺などの活用方策が望まれる。
- ・緑化余地率が低いとはいえ、小規模住宅の密集地の再開発、旧白山通り沿い、本郷通り沿い及び白山上から団子坂沿道で開発を行う場合には、緑の景観の確保を促す必要がある。

[20. 弥生区域]

[基礎データ]

◎ 面積	27.2 ha
◎ 人口	1,989 人
◎ 用途地域	1 高、2 高、1 住、 2 住、近、商
◎ 樹木本数	332 本
◎ 樹木密度	12.2 本/ha
◎ 樹木密度	167 本/1,000人
◎ 保護樹木	2 本
◎ 緑被率	26.4 %
◎ 樹木被覆地率	24.5 %
◎ 緑視率	16.3 %
◎ 公園充足率	29.5 %

[緑のタイプと現況]

緑被地の所有	公有地型
主要な緑被地	学校（東京大学弥生キャンパス） 学校（東京大学浅野キャンパス）
緑被地の規模	大規模

現況

台地上から崖地に位置しており、住居系の区域である。
面積の大部分を東京大学が占めており、特に1丁目は殆どが東京大学弥生キャンパスの敷地である。

2丁目も半分ほどが東京大学の敷地で1、2丁目とも緑地の大部分が東京大学のものである。

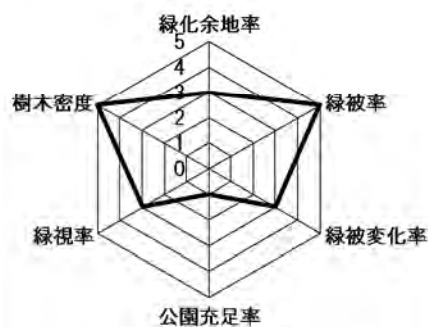
大学以外は小規模住宅が多い。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) …… 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率はやや減少傾向であるが、区の平均を上回っている。
- ・緑視率は1、2丁目ともに区の平均より高く、特に1丁目は高い数値を示している。
- ・大学の敷地内の緑被地が大部分で担保性は高い。今後、大きく成長させられるよう促していく必要がある。
- ・公園充足率が区で一番低い地域であり、公園の設置や、大学との連携方策を検討する必要がある。

[2 1 . 根津区域]

[基礎データ]

◎ 面積	27.2 ha
◎ 人口	6,487 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、2 住、 近、商
◎ 樹木本数	102 本
◎ 樹木密度	5.0 本/ha
◎ 樹木密度	16 本/1,000人
◎ 保護樹木	48 本
◎ 緑被率	13.0 %
◎ 樹木被覆地率	12.8 %
◎ 緑視率	9.5 %
◎ 公園充足率	60.0 %

[緑のタイプと現況]

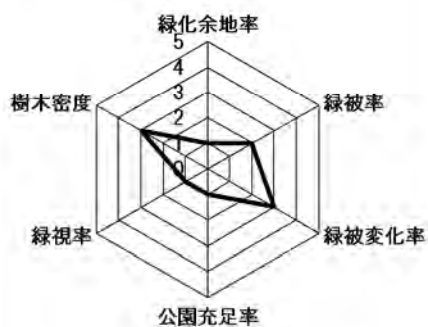
緑被地の所有 民有地型
主要な緑被地 社寺（根津神社）
緑被地の規模 大規模
現況
 不忍通り沿いの低地に位置している。
 商業系と住居系の混在する地域であり、小規模商業ビル、
 小規模住宅が密集する区域である。
 主な緑被地は根津神社であり、住宅地の緑被地は少ない。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) . . . 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・ 1丁目の緑被率は区の平均を上回るが、これは根津神社に負っているところが大きく、緑被率、緑視率ともに区の平均を下回っている。
- ・ 2丁目の緑被率、緑視率ともに非常に低い。限られた場所以外には緑地がないことを示している。
- ・ 緑化余地率は低い水準ではあるが、再開発を行う場合には、壁面緑化などによる、緑の景観の確保を促していく必要がある。
- ・ 不忍通り、言問通りなどでは、関係機関に街路樹や植樹帯の整備を働きかけることも望まれる。

[2 2 . 千 駄 木 区 域]

[基礎データ]

◎ 面積	72.7 ha
◎ 人口	20,631 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、近、 商
◎ 樹木本数	178 本
◎ 樹木密度	2.4 本/ha
◎ 樹木密度	9 本/1,000人
◎ 保護樹木	15 本
◎ 緑被率	10.6 %
◎ 樹木被覆地率	9.8 %
◎ 緑視率	8.4 %
◎ 公園充足率	91.7 %

[緑のタイプと現況]

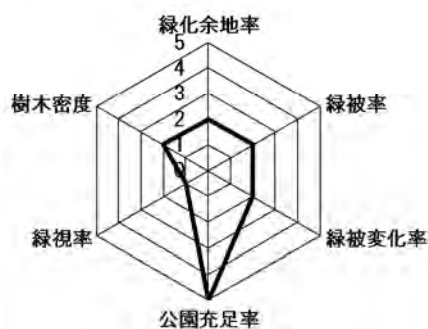
緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 公園（区立須藤公園）、社寺（養源寺）
 緑被地の規模 小規模
 現況
 多くが住宅系の区域であり、台地から崖線、低地へと分布している。
 小規模な住宅が密集しており、不忍通り沿いに一部商業系の中小規模のビルがある。
 緑地は社寺林、公園が主なものであるが、さして多くはない。

[緑の分布]



建ぺい率制限 (%) … 80、60

[緑の評価・指標]



[緑の評価と課題]

- ・緑被率、緑視率とも大きな変化はみられない。
- ・緑被率は2、4丁目が特に低い水準にあり、1、3、5丁目は区の平均より少し低い程度となっている。
- ・緑視率は3、4、5丁目が低く、特に4丁目が顕著である。
- ・現在の緑地は公園、社寺林など、比較的担保性の高いものが多く、これらを維持し成長促進していく必要がある。
- ・緑化余地率が低いのは、小規模住宅の密集地域が広がっているためである。都市計画道路や細街路の整備に伴って再開発が行われる場合は、壁面緑化などによる緑の景観確保を促す必要がある。

[23. 本駒込東区域]

【基礎データ】

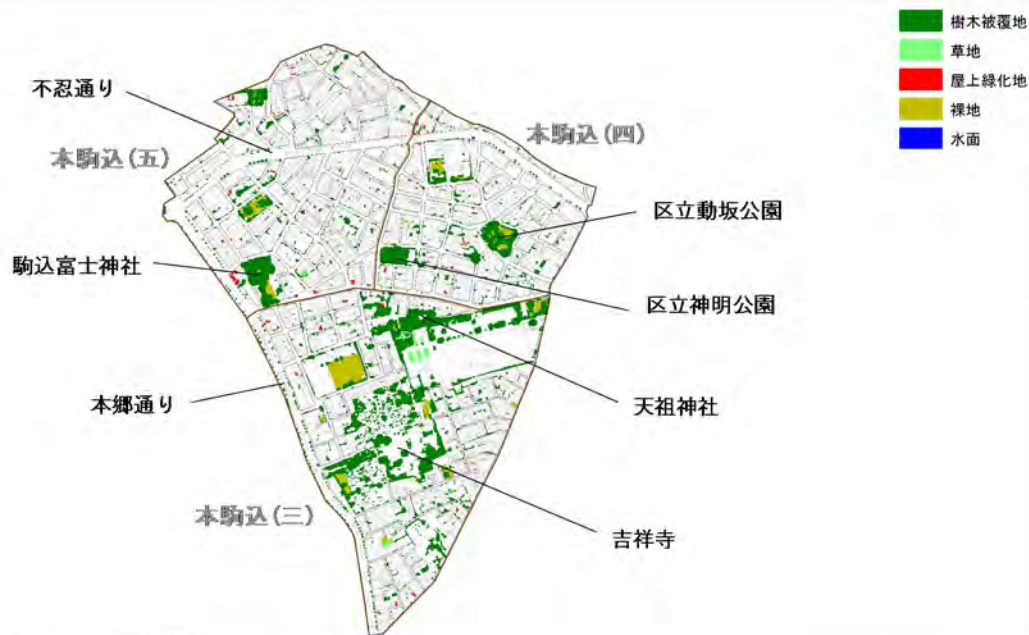
◎ 面積	53.5 ha
◎ 人口	13,597 人
◎ 用途地域	1 高、1 住、近、商
◎ 樹木本数	266 本
◎ 樹木密度	5.0 本/ha
◎ 樹木密度	20 本/1,000人
◎ 保護樹木	57 本
◎ 緑被率	12.3 %
◎ 樹木被覆地率	11.6 %
◎ 緑視率	14.9 %
◎ 公園充足率	94.0 %

【緑のタイプと現況】

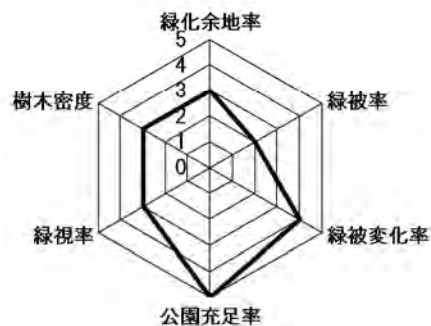
緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 公園（区立動坂公園、区立神明公園）
 緑被地の規模 小規模

現況
 台地から扇状に低地に向かって広がっている区域であり、多くが住居系の区域である。
 主な緑被地は社寺林、公園である。
 不忍通り沿いに中小規模の商業ビルが分布している。

【緑の分布】



【緑の評価・指標】



【緑の評価と課題】

- ・緑被率は増加傾向にあるが、区の平均からは大きく下回り、4、5丁目はかなり低い状況にある。
- ・緑視率は区の平均を上回っているが、5丁目では区の平均を大きく下回っている。
- ・3丁目は社寺林が多く、これらを維持し成長促進していく必要がある。
- ・全体としての緑化余地率からも緑地の大きな増加は望めないが、小規模住宅密集地の再開発がある場合、壁面緑化などによる、緑の景観買う歩を促す必要がある。

[24. 本駒込西区域]

【基礎データ】 六義園除く

◎ 面積	66.9 ha
◎ 人口	13,839 人
◎ 用途地域	1 低、1 高、1 住、 2 住、近、商
◎ 樹木本数	240 本
◎ 樹木密度	3.6 本/ha
◎ 樹木密度	17 本/1,000人
◎ 保護樹木	86 本
◎ 緑被率	14.4 %
◎ 樹木被覆地率	13.2 %
◎ 緑視率	16.3 %
◎ 公園充足率	96.3 %

【緑のタイプと現況】

緑被地の所有 民有地型
 主要な緑被地 民間施設（文京グリーンコート）
 緑被地の規模 小規模

現況

台地上に位置しており、ほとんどが住居系の地域である。
 6丁目は敷地の大きな住宅地が広がっている。
 主な緑被地は、集計対象外であるが特別区域の六義園、
 民間施設、社寺林がある。

【緑の分布】



【緑の評価・指標】



【緑の評価と課題】

- ・緑被率、緑視率ともに前回と同程度である。
- ・緑視率は、1、6丁目ですべての平均を上回る。
- ・緑の豊かな住宅地をはじめとする、民有地の緑が占める割合が高く、これらの維持・保全する方策が求められる。
- ・本郷通り沿い、白山通り沿い及び不忍通り沿いの中小商業ビル等で再開発を行う場合には、壁面緑化などによる緑の景観の確保を促す必要がある。

3. まとめ

区域別地域カルテで示した緑の評価結果から、文京区全体の特徴を把握し、課題の抽出をおこなった。

- 総合評価が高い区域： 目白台、大塚南、関口、春日、弥生、本駒込東、本駒込西

- 総合評価が低い区域： 本郷北、小石川南、白山南、根津

総合評価が高い区域（20点以上）として、目白台、大塚南、関口、春日、弥生、本駒込東、本駒込西が挙げられ、特に目白台、大塚南は30満点中の26点と顕著で、目白台は緑被変化率（1点）以外すべてが5点と、高い数値で安定しており、また大塚南はすべてが平均的点数（3点）を上回って、どちらも理想的な区域といえる。

これら上位区域の緑地は、公共施設と住宅地に多く分布しており、樹木密度、緑被率、緑化余地率が特に高く、安定した緑の分布と新たな緑被地の可能性があることを示している。ただ、多くが民有地のため、大幅な緑の増加は望めないと考えられ、今後、現在の緑の維持を優先にした施策の検討が必要である。

総合評価が低い区域（11点以下）は、本郷北、小石川南、白山南、根津があげられる。

これらの区域は、根津を除いては緑被率や樹木被覆率が低く、小石川南を除いて公園充足率も比較的低い。

本郷北は古い住宅地で、小石川南は住商工混在地で密集しており緑地が少なく、すべての項目で数値が低い。これらの区域では、緑地スペースも限られ、接道部の街路樹や生垣など、緑視景観を考えた緑化施策が重要である。

そのほか、西片、千駄木の区域は、公園充足率が高いため緑の量としては比較的安定すると考えられるが、緑被率は区の平均を下回っており、緑被変化率でも低い数値を示していることから、今後は緑を維持して公園以外の緑地を確保していく方策を検討する必要がある。また、向丘など社寺が多い区域では永続的に緑を保全していくための方策も検討する必要がある。

なお、特別区域では緑被率、樹木密度ともに非常に高く、本区はもとより、23区内の代表的かつ貴重な緑となっている。今後の施策による大きな変動は考えにくいですが、引き続き万全な管理により維持、保全を継続することが望ましい。

